

クマの特徴について

体 色

全身はオス、メスともに黒色です。
老齢個体ではこげ茶色になることもあります。

体 型

成獣の鼻先から尾の先までの長さは通常 120～145 cm
程度です。
メスに比べてオスの方が大きい。

体 重

成獣では通常 60～80kg です。
中には 100kg を超えるものもあります。

月の輪

三日月の形は、細いもの、こじんまりしたもの、
左右非対称、実にさまざまです。



ツキノワグマの足跡
(前足)



ツキノワグマの足跡
(後ろ足)



足跡としては枠内の部分
しか残らないことが多い。



成獣の場合
長さ 15 cm程度
幅 10 cm程度



ツキノワグマの歩行



ツキノワグマの走行

歯

犬歯が発達しています。

また、奥歯は果実や草木など物をすりつぶすのに適するようになっています。

手のひら

弾性力のある肉球があります。

手のひら全体を地面に着けて歩くので物音を立てません。

爪

クマの爪は極めて危険です。

ネコのように引っ込めることができないので足跡には爪の跡も残ります。

腕力

前腕、肩の筋肉が発達しています。

手前へ引く力が強く、穴掘り、木登りが得意です。



幹につけられた爪跡

木の実を食べるために
木を登り降りするとき
についたものです。



嗅覚

イヌ、イノシシ並に鋭く、クマの最大の感覚器官です。

視覚

他の野生動物よりも優れているとはいえません。

遠近感や動体視力が弱いです。

聴覚

人間より優れていますが、低音には意外と鈍感です。

他の肉食獣より足音などの低い音を聞き分けるのは弱いといわれています。

味覚

雑食性で甘いものが大好物です。

しかし、腐った肉や木酢液など悪臭のものにも興味を示します。

触覚

触毛感覚は鈍感です。

皮膚は剛毛の下に厚い皮下脂肪があり、バラ線などに触れてもなんともありません。

行動圏

基本的になわばりはなく、その季節季節の餌のあるところに移動、集中します。
一定の地域を季節を通じて回遊しています。

行動範囲は、オスで 30～70 km²、メスで 20～60 km²といわれています。

しかし、クルミ、クリ、ドングリ類などが不作の年は行動範囲が通常年より 2 倍以上に広がり、人間との接触が増えることがあります。

冬 眠

クマの冬眠（冬ごもり）期間は、初雪が降る頃（福井県では 12 月頃）から 4 月上旬頃までといわれています。

しかし、その年の気象状況や冬眠場所（奥山か里山か）、クマの栄養状態（秋に餌を十分食べられたかどうか）などにより、さまざまなケースが見られます。

出 産

クマは冬眠の間に 1～2 頭程度出産します。

しかし、繁殖力はとても低く、秋に餌が十分食べられるかどうかで妊娠できるかどうかが決まります。



ツキノワグマの糞

食べ物によって、また体調によって形や色が変わります。

秋は直径 4 cm、長さ 15cm ぐらいになり、人間のものとよく似ています。

ツキノワグマのクマ棚



夏の終わりから秋にかけて、木の実を食べるときにできます。樹上で枝先についた実を食べるため、枝を手前に引き寄せて折ります。

実を食べ終わると、その枝を自分の尻に敷くので、枝が折り重なり鳥の巣のようになります。その上で眠ることもあります。



ドングリを食べた跡



食性

その季節季節の旬のものを集中して貪欲に食べる食性があります。

冬……………越冬中は冬眠のため、ほとんど採食はしません。

春から夏…前年に落ちたミズナラやクリ、ブナの若芽、タケノコや山菜、山菜、昆虫類（アリ類やハチ類など）などを食べます。

秋……………クルミ、クリ、ドングリ類（ミズナラやコナラなど）、ブナ、アケビ、カキなどを食べます。炭水化物を多く摂って越冬に備えます。



クマ剥ぎ 樹木の皮をはがして、形成層をかじった跡です。

- 【参考文献】 米田一彦（１９９８）「生かして防ぐ クマの害」 社団法人 農産漁村文化協会
米田一彦（１９９６）「山でクマに会う方法」 株式会社 山と溪谷社
今泉忠明（＋平野めぐみ）（２００４）「野生動物観察事典」 株式会社 東京堂出版